中堅の古田選手は、相手が出ようとするところを面二本を決め、勝ち。副将の吉田選手は、上手く攻め、面と小手を決め、二本勝ち。大将の前田選手は、相手の手元が上がったところを小手を決め、先取しましたが、その後、小手を攻めたところを抜かれ、面を取られて引き分けとなりました。結果として、二勝一敗二引き分けで勝ちを収めました。

二試合目は、山口県と対戦。

先鋒の小池選手は、面返し胴で幸先良く一本を先取しましたが、その後、相手の担ぎ技により面を取られてしまいました。三本目は、小池選手も面を攻めたが、相手の面が一瞬早く面をとられてしまいました。小池選手は、もっている力を充分に発揮されましたが、結果として有効打につながりませんでした。次鋒の安江選手は、有効打に近い技もありましたが、認められず、引き分け。中堅の古田選手は、相手が小手を攻めにきたところをうまく面を先取。その後も、相手が出ようとするところを上手く面を決め、二本勝ち。副将の吉田選手は、相手が小手を打ち、鍔ぜりになりかけた瞬間、引き面を打たれ先取されましたが、その後、攻めて手元が浮いたところを小手を決め引き分け。大将の前田選手は、小手を打ったところ小手・面と攻められ、面を取られてしまい、その後も出ようとしたところ小手を決められてしまいました。前田選手も大将戦という重責の中、積極的に技を出し、攻めの剣道をされましたが、有効打につながりませんでした。結果、一勝二敗二引き分けで敗戦となりました。

山口県は、その後勝ち進み、優勝戦までいきましたが、神奈川県Aチームに負け、準優勝でした。

今回の大会から、交代選手の和田選手も、試合直前まで、共に汗を流し、稽古を積み重ねてこられ、いつでも出られるよう準備を進めてこられるとともに、他の選手たちの心を繋ぐ役割を担っていただきました。

岐阜県の選手団は、選手一人ひとりが持っている技を充分に出し切り、予選リーグを突破し、決勝トーナメントへ勝ち進むことを目標に頑張ってきましたが、あと一歩のところで叶えることができませんでした。

令和七年には、岐阜県（関市）で全国健康福祉祭を開催することになります。今回の神奈川大会で学んだ試合運びや運営方法を教訓に、さらに修練を積み重ね、頑張っていくことを誓い会場を後にしました。

最後に、漱玉館における全国健康福祉祭に向けた選手強化に、御指導をいただきました皆様に感謝申し上げます。

神奈川大会出場選手

祝 昇段

令和四年度の剣道・居合道の称号、段位（六段以上）合格者は、次の皆さんです。合格おめでとうございます。更なるご精武を祈念します。

《剣道称号》

●五月六日＝京都

錬士
藤井　紀幸（加　茂）
青木　信秀（大垣市）
梅田　好子（加　茂）
大場　純治（大垣市）
高木　博久（大垣市）

教士
花木　真人（本　巣）
石樽　和巳（岐　阜）
伊藤　大輔（岐　阜）
吉野　雅人（多治見）

●十一月十八日＝東京

錬士
栗本　　匠（岐　阜）
五十嵐　洸（岐　阜）
岩崎　俊成（中津川）
福田　陽祐（本　巣）
日野　直人（大垣市）
藤井　　淳（大垣市）
加藤　信基（岐　阜）
杉山　豊和（本　巣）
早野　壽人（大垣市）
青木　　透（本　巣）
山中　秀樹（土　岐）
佐藤　尚也（岐　阜）
中島　浩平（多治見）
山岸恵美子（美　濃）
高井　　治（加　茂）

《剣道七段》

●五月十四日＝愛知

江原　寛二（岐　阜）
白川　順一（岐　阜）
土屋　　聡（加　茂）
吉田　貞明（各務原）
高橋　孝久（　関　）
日野　智之（岐　阜）
道上　勝彦（高　山）

《剣道六段》

●五月十五日＝愛知

荒川　佳洸（可　児）
長屋　貴大（各務原）
堀内　宣秀（加　茂）
藤代　勝也（郡　上）
鈴木　晃司（各務原）
植田　和明（中津川）
安田康次郎（各務原）
松井　茂幸（　関　）
山本登志隆（恵　那）
市原ゆかり（　関　）
川合　充生（岐　阜）
山路　基洋（本　巣）

《剣道七段》

●八月二十日＝新潟

中村　新吾（加　茂）

《剣道六段》

●八月二十一日＝新潟

伊藤　崇司（岐　阜）
霜出　剛史（飛　騨）
鳥澤　　敦（加　茂）
南　　敏広（飛　騨）